

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句  
令和二年十二月度 入選句（投稿総数二千四百九十二句・小中学投句数千九百十六句）

特選

選者 遠藤 幹郎

七五三きょうはわたしもプリンセス 大垣市 とみた まお(小二)

七五三は、十一月十五日に男子は三歳・五歳、女子は三歳、七歳のお祝いを受ける年中行事です。

七五三のお参りやお祝いを受けた作者の喜びの気持ちが、「わたしもプリンセス(王妃)」ということばにあふれています。リズムも歯切れもよく、漢字、ひらがな・カタカナが美しく並んだすてきな一句です。

おちばかきいっぱいしてももとどおり 大垣市 渡辺 美空(小二)

秋の終わりに冬にかけて、木々は葉っぱを色を変えてことごとく落としてしまいます。これは、来年に美しい若葉が出るように、木に養分を備わえるためです。掻き集めても掻き集めても、あとからあとから落ちて来る、落葉かきの貴重な体験から生まれた一句です。

応えんは手びょうしでやる運動会 大垣市 伊藤 皇太朗(小六)

小学校最後の運動会。今年は、新型コロナウイルスから身を守るために、応えんの仕方が全く様変わりしました。声を張り上げるのではなく手びょうしで応えんをしたのですね。いつもと全く違った手拍子による応えんを体験した作者ならではの一句となりました。

秀逸

せの高いススキを見つけせいくらべ 大垣市 川瀬 結愛(小四)

よるになり家路を照らす月明かり 大垣市 篠田 明璃(小四)

ハロウィンのお化けになっておにごっこ 大垣市 メカロ アユミ(小四)

薄がね風といっしょに歌ってる 大垣市 三輪 有希(小四)

もみじの木色が変わっただいへんしん 大垣市 外花 瑠彩(小四)

おとなりさん秋刀魚を焼いているのかな 大垣市 山口 朝也(小六)

福ぶくろ重み気にして帰る道 大垣市 神谷 咲希(小四)

百五十回前とびをする冬の朝 大垣市 河添 朔也(小四)

年越しに家族で抱負を語り合う 加茂郡川辺町 石井 奈々美(中三)

進路へのとびらをひらく冬がきた 加茂郡川辺町 木下 和奏(中三)

入選

ドングリがおしゃれなぼうしかぶってる 大垣市 田中 紅音(小四)  
 イチョウのはきいろじゅうたんねころがる 大垣市 日比 栞鈴(小四)  
 列車のねまどから見える冬景色 大垣市 石谷 颯志(小三)  
 どんぐりでいろんなおもちゃつくれそう 大垣市 高木 新太(小二)  
 もりへ行きくりをひろってくりごはん 大垣市 いこま れな(小二)  
 さわやかな風にふかれて個人走 大垣市 田中 明沙(小五)  
 風がふくすなぼこりまう運動会 大垣市 清水 琉惶(小五)  
 くも一つなき青天で運動会 大垣市 渡辺 一成(小五)  
 秋の夜暗い空には月上る 大垣市 高木 ひより(小四)  
 一度だけのぼってみたい秋の山 大垣市 馬淵 由奈(小四)

入選

どんぐりがぼうしをかぶっておでかけだ 大垣市 難波田 柚依(小四)  
 かかしはねひとのかわりをしてくれる 大垣市 田島 えいと(小四)  
 虫の声しずかな夜にひびいてる 大垣市 加藤 愛菜(小六)  
 もみじの木赤く色づきもようがえ 大垣市 佐藤 来海(小六)  
 ピンクの田コスモスの風香る花 大垣市 大塚 はんな(小六)  
 家の中だんぼう器具でいっぱいに 大垣市 多湖 悠之介(小四)  
 いい香りちよっぴりかゆいゆずのふろ 大垣市 木下 優花(小四)  
 ハアハアと手をあたためる白い息 大垣市 松川 明愛(小四)  
 お正月コロナでどこも行けないよ 大垣市 川満 龍昇(小二)  
 金生山白いおふとん山ねむる 大垣市 伊藤 晟冴(小二)

選者吟

山眠る山ふところに灯の点り

幹 郎